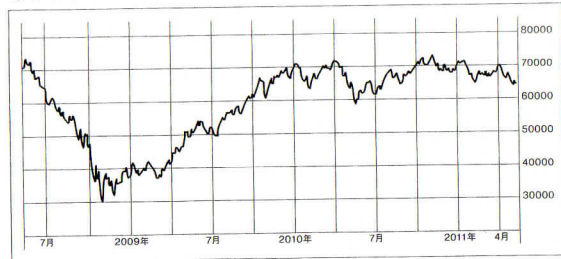


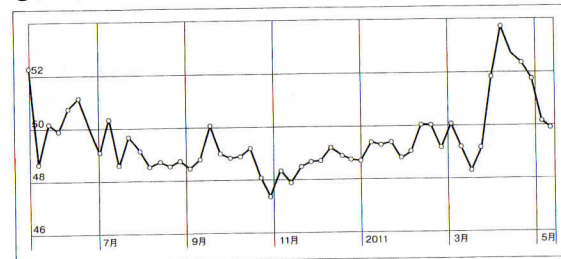
●ブラジルボベスパ指数



(出所) ブルームバーグ

●ブラジルリアル/円の推移

(1リアル/円)



(出所) LOOBIZ.com

まとまった資金がなければ
積立てで追加購入を提案

では、お客様の見通しの例として、①ブラジルの成長にまだ魅力を感じているケース、②地震等もあり先行きが不透明なので投資に

堅調に推移すると考えられるため、積立投資を勧めるのがよいのではないだろうか。

不安を感じているケースという2点を挙げたうえで、提案内容を考えてみたい。
まず①の場合であるが、筆者が考える見通しと同様の考えを持つお客様だと見える。ブラジルに投資するファンドは数多く販売されているが、債券ファンドの多くは分配金を継続的に出しており、年間の分配金利回りは8%を超える

ものもある。
また、株式ファンドにおいても高い分配金を出すファンドも見受けられる。こうした分配金に引かれて購入する投資家も多いといえる。しかしながら、足許の相場においては株式相場も債券相場も若干下落傾向にあるため、基準価額が少し下がっていることに不安を感じるお客様もいるだろう。ただ、これまで説明したように、高金利であること、内需拡大が見込めることなどから相場は堅調に推移すると想定される。
分配金を再投資しながら毎月積立てで追加購入していくことが高成長国への投資方法としてはよいのではないだろうか。お客様には経済状況等を説明しながら、数年後に迫るオリンピックやワールドカップといったビッグイベント、豊富な資源を有することなど、投資を行うにあたって魅力的な点と共有し合い、追加購入を勧めてみるよみだろう。まとまった資金がない場合には、積立投資を勧めるとよい。
また、ブラジルの金融取引税

無理に引き止めることなく
安全性の高い投信を提案

次に、②のケースを考えてみよう。震災後、投資信託を解約したり株式を売却したりすることで、手許に資金を確保したお客様もいると思う。「不安」という心理側面から、通常よりも多めの資金を手許に確保しておきたいの分があるが、ここはあわてず冷静になることが大事だといえる。
特に、新興国など成長期待が高

ケース2

ブラジルファンドに投資し分配金には満足しているが
基準価額が少し下がっていることに不安があるお客様



経済成長にまだ魅力を感じるお客様には
分配金の再投資や積立投資を勧める

本からブラジルへの投資は、一般的にブラジルの株式へ投資する投資信託とブラジルの債券へ投資する投資信託が考えられる。当然ながら、いずれの投資においても、政策金利の動向やブラジル経済のマイナスとなりうる要因について、把握したうえで投資することが望ましい。
まず、ブラジルの経済や為替の現状についてみていきたい。昨年秋以降、ブラジルでは消費者物価指数の上昇ペースが加速し、2011年4月の前年比上昇率は6.51%となっている。
この数値は、ブラジル中央銀行が物価上昇目標の上限としている6.5%を突破していることもあり、4月21日には今年3回目となる利上げを実施した。0.25%の利上げが実施された結果、現在の政策金利は12%となっている。ブラジルにとって消費者物価指数の上昇は、頭の痛い問題といえる。過去にブラジルでは1年間で約2500%といったハイパーインフレに悩まされた経験があることは記憶に新しい。

真の経済大国になるための
訓練に直面するブラジル
今回のインフレはブラジル経済の内需拡大に伴う財・サービスの需給ひっ迫や原油価格高騰などが原因といえ、政府もインフレ抑制と経済成長の実現を図るべく利上げ以外の方策も導入しつつある。ある意味、ブラジルが真の経済大国へ躍り出る訓練に立たされているともいえる。
2010年には、7.5%と非常に高い成長率を誇ったブラジルであるが、2011年は4%台の成長に減速する見通しが優勢となっている。この点は株価にとってマイナス材料といえる。
また、利上げによりレアル高となる側面があることも忘れてはならない。さらに、4月4日には格付会社Fitchがブラジルのソブリン格付けをBBBマイナスからBBBへ引き上げたこともレアル高を進行させることとなった。日本の投資家にとってレアル高円安傾向は、為替差益も享受できるといえる。

そして格付引上げ自体は債券、株価ともにプラス要因として捉えることができ、長期的に見れば内需拡大の見込めるブラジルの成長はまだまだ期待できるといえる。
なおブラジルの最近の株式相場においては、中国の利上げ、欧州における信用不安の再燃、S&Pによる米国債の格付引下げの見通し、インフレ懸念、レアル高の進行などが嫌気され、軟調な展開となっている。
また債券相場においては、利上げ観測から短期債の金利が上昇した一方、中銀総裁等によるインフレ抑制に対する強い意思が表明されたことが好感され中長期債の金利は低下した。これに伴い、債券は買われやすい状況にあるともいえる。
以上、簡単ではあるが4月以降のブラジル経済の現状について振り返ってみた。投資家のリスク回避志向が強まる場面では、株式や債券、レアルが売られる側面があるといえるため、ブラジル投資には注意したいものの、長期で見れば引き続き為替相場も株式相場も

想定トーク例②

地震等もあり今後の投資に不安を感じているならこんなアドバイスを！



想定トーク例①

ブラジルの成長にまだ魅力を感じているならこんなアドバイスを！



経緯をまずは聞いてみるとよい。多くの方が少なくとも数年以上の長期投資という観点から投資をしているはずである。積立投資によるドルコスト平均法のメリットを享受できる点を説明し、将来の成長を期待してコツコツ購入していくことも勧めてみよう。

分配金を享受できる点も長期投資のメリットだといえる。先行きが不透明である点も、分配金を再投資し複利効果を得ることで基準価額の多少の下落にも耐えられる環境をつくれることを説明してみよう。

仮に、税引き後の分配金利回りが年8%であり他のリスクを考えないとするならば、9年間保有すれば2倍になり、その間に基準価額が大幅に下落しない限り大損することもないと説明すれば、お客様の不安もある程度は解消されるはずである（もちろん、分配金が将来一定額で支払われるわけではない点を説明する必要がある）。

このような形で、追加購入の提案を行うことがよいのではないだろうか。

また国々へ投資をしている場合には、余裕資金による運用を行っていることが大前提であるから、無理に解約する必要はないだろう。

不安になって解約を検討するお客様であれば、まずは必要な資金を確保するための必要な資金を単に不安であるから投資をやめるのを聞くべきである。

先行きが不透明であり、手許に現金化しておきたい意思が強いお客様の場合は無理に引き止めず、お客様の意向に従うのがよい。そして現金保有以外に、安全性の高いMMFや日本債券（例えば個人向け国債）、日本債券に投資するファンドなどを提案するのもよいであろう。そして日本を含め世界経済が安定的に推移するようにいったら、再度ブラジル投資を検討するよう提案してみてもどうだろうか。

単に不安だからという理由のお客様には、ブラジル投資を行った